

人権問題都民講座
スクール・ソーシャルワーカーと見る映画

青い鳥

いじめで自殺未遂事件が起こった中学校。自殺未遂の生徒が転校したあと、クラスに臨時の担任として村内が赴任してきた。極度の吃音の村内に生徒たちは苦笑するが、生徒たちに彼は「忘れるなんて、ひきょうだな」と言い放つ。そして片付けられた野口の机をクラスに戻させ、毎朝無人の机に挨拶し続けた…

重松清原作の短編集から、表題作を映画化。被害者と加害者という構図では割り切れない、いじめの周辺にいた生徒たちの心の動きをリアルに描いた作品。



ナビゲーター
あまの けいこ
天野敬子さん

スクール・ソーシャルワーカー

不登校・ひきこもり研究所代表。
精神保健福祉士、ダンスセラピスト。
神戸大学教育学部卒。2006年大
正大学大学院人間学研究科社会
福祉学専攻修士課程修了。
埼玉県さわやか相談員を経て、居場
所づくりをテーマに地域活動に専心す
る。2008年より、中野区スクールソーシャ
ルワーカーとして活動。

スクール・ソーシャルワーカーとは

子ども・学校・家庭・地域をつなぐ福祉職
専門家。虐待や不登校など、子どもをめぐる
様々な問題に対して、関係する機関が総合的
に対応できるよう働きかける。



2010年
12月11日(土)
東京都人権プラザ

〒111-0023 東京都台東区橋場 1-1-6

時 間：14:00-16:45(開場 13:30)

参加費：500円

定 員：80名(先着順)

電話・FAX・Eメールにてお申し込みください。
(裏面のお申し込み用紙をご参照ください。)